

定期作況報告

平成18年9月
(9月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

8月下旬：最低気温、平均気温は平年より極めて高く、最高気温は平年より高かった。降水量は平年より多かった（平年比158%）。日照時間は平年より多かった（平年比144%）。

9月上旬：最高気温は平年並、最低気温、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より少なかった（平年比24%）。日照時間は平年並であった（平年比94%）。

9月中旬：最高気温、平均気温は平年よりやや高く、最低気温は平年並であった。降水量は平年より少なかった（平年比17%）。日照時間は平年並であった（平年比113%）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は、気温は平年よりやや高く、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年並であった。

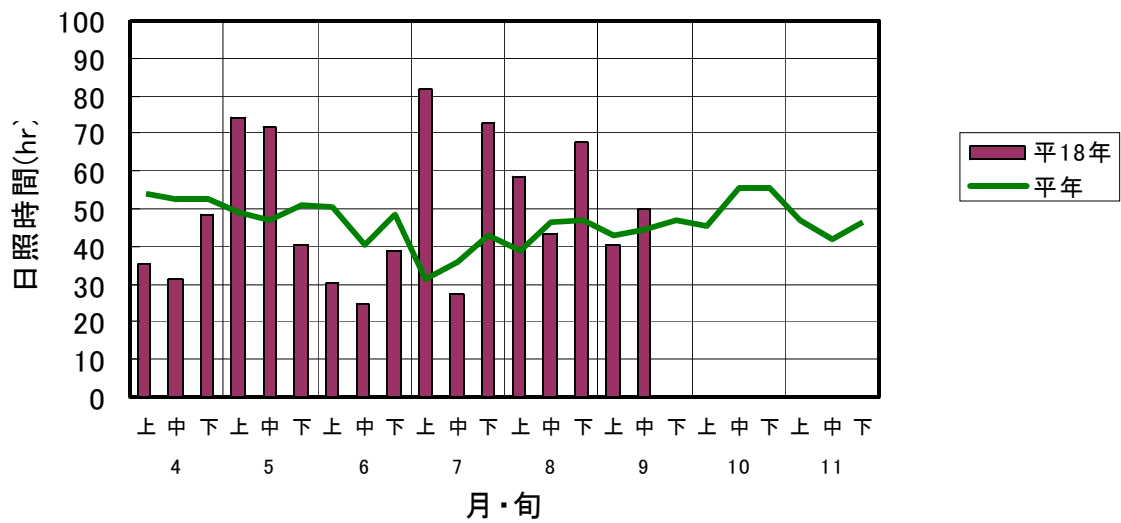
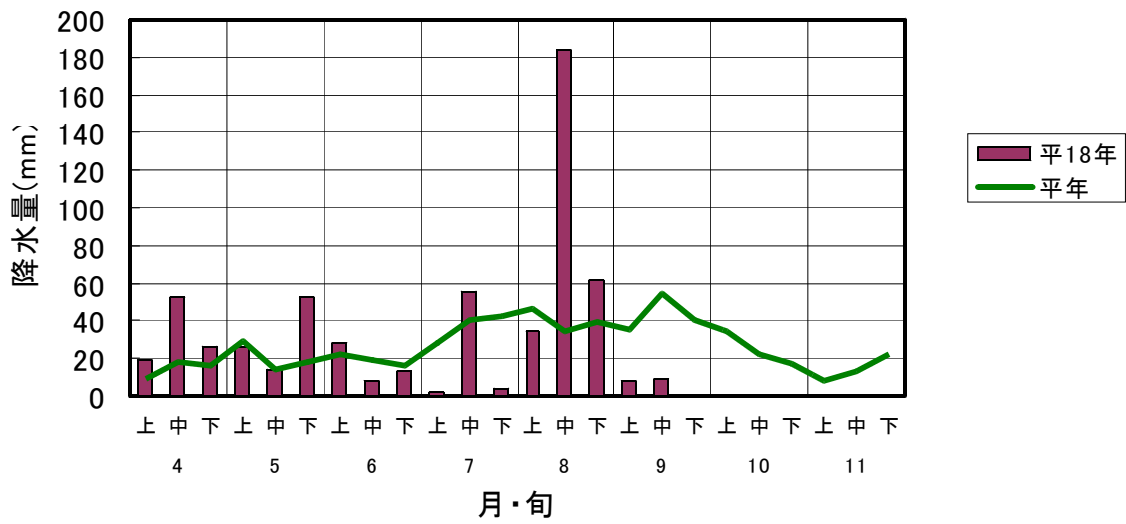
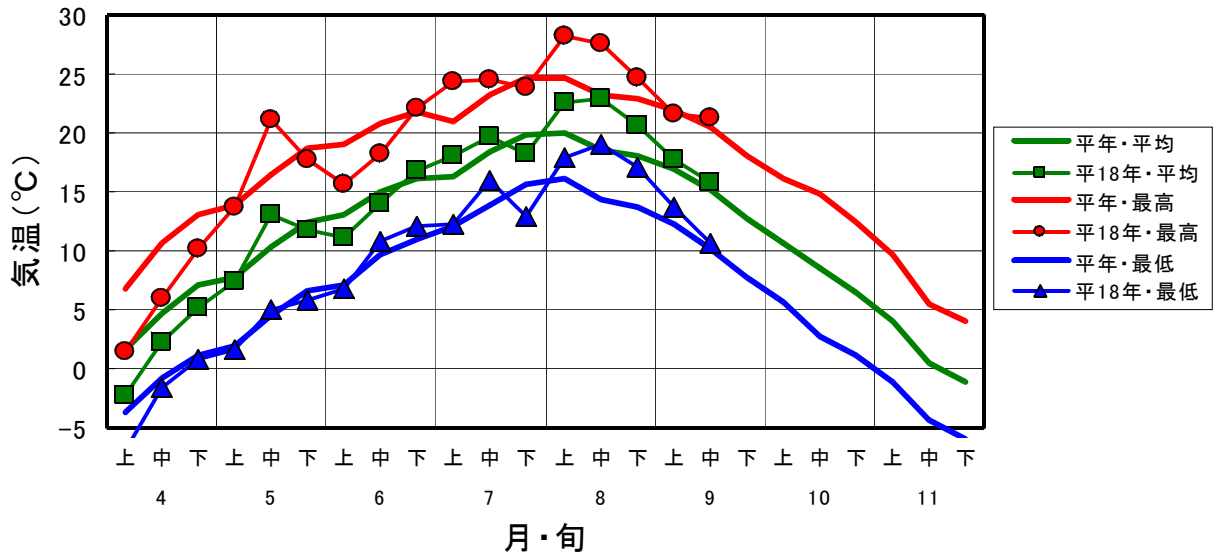
注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

気象表

項目 月旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	20.6	18.1	2.5	24.6	22.8	1.8	17.0	13.7	3.3
9月上旬	17.7	17.0	0.7	21.6	21.9	△0.3	13.7	12.2	1.5
9月中旬	15.8	15.2	0.6	21.4	20.4	1.0	10.7	10.2	0.5
平均	18.1	16.8	1.3	22.6	21.7	0.9	13.9	12.1	1.8

項目 月旬	降水量 (mm)			日照時間 (h)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	61.5	38.9	22.6	67.9	47.0	20.9
9月上旬	8.5	35.0	△26.5	40.5	43.1	△2.6
9月中旬	9.0	54.1	△46.1	49.9	44.2	△1.0
合計	79.0	128.0	△49.0	158.3	134.3	24.0

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。
2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) とうもろこし(サイレージ用) 作況：平年並

事由：8月下旬～9月中旬は平年よりやや高温に経過したが、9月20日現在の稈長は平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ディアHT		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (9月20日)	222	223	△ 1

注) 平年値は前7か年のうち平成16年(最豊)、17年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 大豆 作況：良

事由：8月下旬から9月中旬がやや高温に経過したため、前期の良好な生育を引き継ぎ、主茎長および主茎節数は概ね平年並、分枝数は平年並からやや多かった。着莢数は平年を「トヨコマチ」が15%、「トヨホマレ」が24%上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目		トヨコマチ			トヨホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm)	(9月20日)	53.9	58.8	△ 4.9	49.1	53.9	△ 4.8
主節節数	(9月20日)	10.7	11.1	△ 0.4	11.2	11.4	△ 0.2
分枝数(本/株)	(9月20日)	6.7	5.2	1.5	5.1	4.7	0.4
着莢数(個/株)	(9月20日)	72.6	63.1	9.5	90.9	73.5	17.4

注) 平年値は、前7か年中平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

3) 小豆

作況：良

事由：主茎長は平年より高く、主茎節数はやや多く、分枝数は平年並からやや少なかった。着莢数は平年を「エリモシヨウズ」が30%、「サホロシヨウズ」が16%上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目		エリモシヨウズ			サホロシヨウズ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm)	(9月20日)	63.5	59.0	4.5	57.6	47.4	10.2
主節節数	(9月20日)	14.8	13.6	1.2	13.9	11.0	2.9
分枝数(本/株)	(9月20日)	3.7	3.4	0.3	3.1	4.0	△ 0.9
着莢数(個/株)	(9月20日)	59.6	45.8	13.8	54.8	47.1	7.7

注) 平年値は、前8か年中平成10年(最凶)、17年(最豊)および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

4) 菜豆

作況：やや良

事由：成熟期は「大正金時」および「福勝」ともに平年より1日早かった。主茎長、主茎節数および分枝数は平年並からやや少ないが、着莢数は平年をやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目		大正金時			福勝		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期	(月.日)	9.2	9.3	△ 1	9.7	9.8	△ 1
主茎長(cm)	(9月20日)	36.3	42.0	△ 5.7	37.3	44.2	△ 6.9
	(成熟期)	36.3	42.0	△ 5.7	37.3	44.2	△ 6.9
主節節数	(9月20日)	5.1	5.4	△ 0.3	5.3	5.6	△ 0.3
	(成熟期)	5.1	5.4	△ 0.3	5.3	5.6	△ 0.3
分枝数(本/株)	(9月20日)	3.7	4.0	△ 0.3	3.8	3.8	0.0
	(成熟期)	3.7	4.0	△ 0.3	3.8	3.9	△ 0.1
着莢数(個/株)	(9月20日)	22.7	19.2	3.5	19.0	18.0	1.0
	(成熟期)	22.7	19.2	3.5	19.0	18.0	1.0

注) 平年値は、前8か年中平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

5) ばれいしょ

作 況：やや良

事 由：

早生の「男爵薯」の枯凋期はほぼ平年並の9月4日であった。「男爵薯」は、上いも数が少なかったものの上いも1個重が大きく、上いも重は平年並となった。中晩生の「コナフブキ」は、8月中の降水により十分な水分があったことと、9月に入って高温傾向が終わり塊茎肥大に適切な気温になったことから、上いも重は平年を18%上回った。一方、8月中の降水により土壌が湿潤な状態が続いた影響を受け、でん粉価は「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年を下回った。しかしながら、「コナフブキ」のでん粉重は、上いも重が多かったことから平年を11%上回った。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯凋期 (月.日)	9.4	9.6	△ 2		10.4	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	5134	4340	794
でん粉価(%) (9月20日)	—	—	—	21.1	22.9	△ 1.8
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	1034	944	90
上いも数(個/株)	8.0	9.6	△ 1.6		9.3	
上いも1個重(g)	118	96	22		111	
上いも重(kg/10a)	4203	4182	21		4662	
同上平年比(%)	101	100	1		100	
でん粉価(%)	15.3	16.0	△ 0.7		22.7	

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15(最凶)、17年(最豊)を、「コナフブキ」は平成14(最豊)、15年(最凶)を除く5か年の平均。

6) てんさい

作 況：良

事 由：気温がやや高く推移したため、地下部の肥大は順調であり、移植栽培では平年を12～17%上回り、根重は直播栽培では平年を4%上回った。また、9月に入って夜温も低下し、降水量も少なく推移したため、登熟も順調に進み、根中糖分は平年並である。

以上のことから現在の作況は「良」である。

調査項目		移植						直播		
		モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較		平年	比較
草丈(cm)	(9月20日)	58.1	65.6	△ 7.5	54.7	60.8	△ 6.1	61.7	67.2	△ 5.5
生葉数(枚)	(9月20日)	30.5	31.0	△ 0.5	31.5	29.2	2.3	25.3	29.4	△ 4.1
茎葉重(g/個体)	(9月20日)	811	967	△ 156	959	948	11	737	908	△ 171
根重(g/個体)	(9月20日)	942	840	102	1007	861	146	718	690	28
根周(cm)	(9月20日)	34.1	33.0	1.1	37.4	34.4	3.0	30.5	29.7	0.8
根中糖分(%)	(9月20日)	15.24	15.09	0.15	15.39	15.26	0.13	15.18	14.67	0.51

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成11年(最凶)、17年(最豊)、「アーベント」は平成11年(最凶)、16年(最豊)、直播「モノホマレ」は平成11年(最凶)、16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

7) 牧草(チモシー)

作 況：平年並

事 由：先月までの1～2番草を合計した乾物収量が平年並であり、また9月4日に計測した3番草再生時の草丈も平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	43	42	1

注) 平年値は前4か年の平均(耕種概要・調査項目が大幅に変更されたため)。

8) たまねぎ

作 況：やや不良（参考）

事 由：8月中旬からの多雨と8月下旬の高温により、倒伏揃い後の「スーパー北もみじ」の葉枯れ症状は著しく進行した。「スーパー北もみじ」は9月1日に根切りを実施し、9月4日に枯葉期に至り、9月8日に収穫した。

「スーパー北もみじ」の規格内率が平年をやや上回ったものの、総収量、規格内収量および平均一球重は両品種とも平年をやや下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月.日)	8.20	8.26	△ 6	9.4	9.9	△ 5
収穫期 (月.日)	8.22	9.8	△ 17	9.8	9.16	△ 8
総収量(kg/10a)	6591	6694	△ 103	7754	8223	△ 469
規格内収量(kg/10a)	5796	6026	△ 230	6769	6892	△ 123
同上平年比 (%)	96	100	△ 4	98	100	△ 2
規格内率 (%)	88	90	△ 2	87	84	3
平均一球重(g)	209	213	△ 4	245	261	△ 16

注) 平均値は、沖積土壌で試験を開始した平成15年から平成17年までの3か年の平均。